

2021年12月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答の要旨

Q1：好調な業績は来期以降も続くと予想しているか。また、今後の事業環境について見通しを伺いたい。

A1：来年以降も高い収益力を維持向上させていくことができると考えています。現在、世界最大の市場であるアメリカ市場ではワクチン接種が進み、一部の楽器関連については今までより需要が減少傾向にあるものの、ステイホーム需要を追い風にして向上した当社製品への需要は、引続き堅調を維持しております。今後、米国同様にワクチン接種が進むであろう他の地域でも同様の傾向があるものと予測しております。

Q2：当下期の研究開発費は、当上期と比較して、どの程度の金額が発生するのか。

A2：当期の研究開発費は、第1四半期に比べて第2四半期が1億円ほど多い結果となりました。この傾向は、当期は第3四半期と第4四半期の途中ぐらいまで続き、上期に比べて下期が多くなると見込んでおります。

Q3：当期の連結業績予想の修正について。上期は前年好調の反動減があると想定したが好調であったため上方修正し、下期は不透明な状況は変わらず慎重にみて、期初の反動減の想定をそのまま維持して修正を行ったのか。

A3：当初の年間予想に比べて当上期に大きな反動減はなく、また、下期についても引き続き当社製品に対する需要は高いと考えております。しかしながら、下期については、世界的な半導体不足による生産の遅延が見込まれるため、販売機会損失を考慮して業績予想を修正しており、仮に当社の注文に応じた半導体の量を確保できるのであれば、もう少し上方の修正幅が大きくなったと考えております。

Q4：このコロナ禍において御社製品のユーザー層に変化はあったのか。

A4：当社製品の売上から推測しますと、ポッドキャストが北米を中心として劇的に広がり、そこにP4、P8という製品をタイムリーに発売できたことが業績にプラス影響を及ぼしました。また、デジタルミキサー/レコーダーのLシリーズが配信用のミキサーとしても使えるので、音楽用途もさることながら、配信、インターネットに接続するという目的のユーザーが大きく増えたと推測します。

Q 5 : 今期後半から来期にかけて発表する新製品と、特に期待されている新製品について。また、発売が遅延している理由について。

A 5 : 来期に向けて今年の後半から発売していく新製品は、開発の仕上げの段階です。今年は、旭化成の半導体工場の火災の影響により新製品の開発が後ろにずれ込んでおります。幾つかの新製品については、9月、10月ではなく、11月、12月、来年の1月と少し発表時期を延期する可能性がございます。

Q 6 : 第3次中計目標の営業利益率8%はすでに当期の修正予想で達成しているが、次の営業利益率の目標水準について。それは、どのような施策により実現していくのか。

A 6 : 今期修正予想の営業利益率は8%を超えております。今後の目標ですが、いたずらに利益増をめざすのではなく、ESGやSDGsに対してどのようなことを行っていくのか、どのようにお金を使っていくのか熟慮を重ね、最低8%は維持しつつ、ステークホルダーに当社の利益を配分していくという方針で今後の経営を行っていきたいと考えております。

Q 7 : 北米以外の拡販強化のため、他国の代理店の子会社化は可能か。

A 7 : 昨年、北米の代理店の連結子会社化が完了し、そのプラス効果も出てまいりましたので、自然の流れとして他国の代理店の子会社化も将来の検討課題と考えております。